



小 割 直 彦 議員

井手共同墓地に通じる道路整備は

柳原建設課長

整備に向けて検討していく

Q 井手地区共同墓地に通じる道路の一部が大変傷んでいる。町として今後整備を行う予定は。

A 利用者の通行の安全を確保するため、痛みの激しい箇所は今年度内に補修を実施したい。

Q バイパス整備に伴う周辺道路の整備計画は。

A 国が国道バイパスの新庁舎より南側区間において、これから道

路予定設計に着手されると聞いていることから、令和6年度当初予算案に必要額を計上している。今後アクセス



共同墓地への傷んだ道

道路を含む周辺道路の整備計画について、国と調整しながら検討を進めていきたい。

岡田池の管理は

菱本産業環境課長

地域の水利組合が管理している

Q 岡田池の維持管理や今後の整備計画は。

A 井手土地改良区が管理する農業用ため池であり、日常的な維持管理は地域の水利組合が管理されている。ため池の老朽化状況評価の調査では、防災

工事の対策の必要がないとの診断結果であり、今のところ、町による整備の計画はしていない。必要があれば本事業の補助金を活用し、水路の整備をおこなってもらうことも可能である。

Q 水源地から下流への水路整備の計画は。

A 基本的には地域の水利組合等で管理され、今後も国、府の補助金確保に努め、継続して支援できる体制を維持していきたい。



岡田池の池底の状態



木村武壽 議員

旧庁舎の今後の活用方針は

協本総務課長 関係機関への相談や情報収集に努める

A 具体的な利用方法について、区や各種団体からの申し出はない。
Q 今後、旧庁舎活用方法を検討する際の町の方針は。

Q 現在旧庁舎の電気・ガス・水道の管理状況は。

引き続き使用している。ガスについては、既に廃止しており、水道については、旧庁舎へ引き込む元栓を閉めており、旧庁舎内で水は利用出来ない状況。

A 現在、電気については、防犯上の観点から、正面玄関及び旧庁舎の西側、南側の街灯を点灯しており、時報のサイレンも吹鳴していることから、以前に比べ激減しているが、

Q 旧庁舎の利用について区や各種団体からの申し出は。

旧庁舎の利用について区や各種団体からのご意見を伺う場を設定し検討を進めたい。



有効活用が求められる旧庁舎



鎌田 隆宏 議員

同報系防災行政無線の設置台数は

協本総務課長

町内9か所に設置

Q 「屋外拡声器」の設置場所と設置台数は。

A 井手町役場、玉水公園内、いづみ人権交流センター、下赤田児童遊園、多賀地区共同墓地駐車場、多賀地区防災広場、東部公園内、南部区公園内、井手小学校有王分校の9か所に9台設置する。

Q 停電した場合でも正常に機能するのか。

A 停電に備え、72時間使用できる非常用電源を配備している。

Q 時報の時刻はこれまでと同様か。

A メロディーチャイムを現在と同様の8時、12時、17時に放送する。

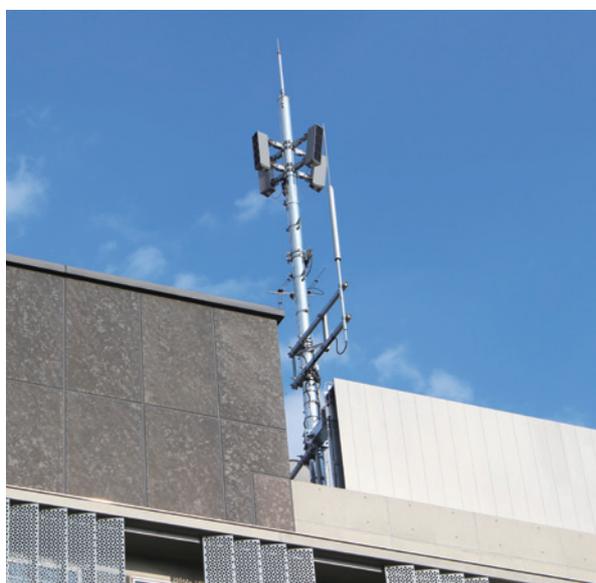
Q メロディーチャイムの決定方法は。

A 一般的な曲の中から

ら、時刻にあった曲を選定する予定。

Q 各区の区長宅や公民館などに「戸別受信機」が配備されるが、その内容は。

A 各施設にラジオ型の受信機を配置。区長には持ち運びが可能な小型ラジオのような受信機を配備する。



防災情報を一斉に放送します

災害協定についての

具体的内容は

協本総務課長

資機材や人材の提供を受ける

Q 井手町建設業協会、BIG協同組合、白坂テクノパーク連絡協議会との防災協定はどのようなものか。

A 重機などの資機材や人材等の提供、応急復旧工事などの対応を実施。物資の提供も受ける。

Q 消防署や消防団から要請を受けた場合、その重機を使用した救助は可能か。

A それらの資機材を使用した救助活動を行う。

Q 医療救護活動について、綴喜医師会と協定の具体的な内容は。

A 救護所において、応急処置や傷病程度の診断、医療機関への転

送の要否や転送順位の決定、死亡の確認など。

Q 防災訓練とは別に援助を受けるための訓練を設けてはどうか。

A ボランティアについては、社会福祉協議会がボランティアセンターを設置し受入れる。行政機関からの派遣受入れは、効果的な訓練内容等について協議・調整しながら前向きに検討したい。



迅速な応急復旧活動が期待される



岡田 久雄 議員

学校施設等の老朽化対策は

高江学校教育課長
寺井企画財政課長
西島同和・人権政策課長

計画的な整備が必要

Q 国が示す学校施設等の老朽化対策の方針は。

A 安全性を最優先として、計画的に整備を進め、また、施設劣化に伴い、「事後保全」型の管理から、計画的に、点検・修繕等を行い、不具合を未然に防止する「予防保全」型の管理の転換を目指すことが求められる。適

時・適切な整備ができるよう、改修等の実施時期や規模等を定めた中長期的な整備計画を策定し、計画的に整備することが必要であるとされている。

Q 井手小学校・泉ヶ丘中学校の改修・時期は。

A 井手小南校舎は令和3年度に、2階部分



外壁塗装が急がれる井手小学校

の外壁の補修・塗装は実施しており、残る箇所は財源状況など総合的に検討し、順次取り組む。

Q 他の公共施設の老朽化対策は。

A 「井手町公共施設等総合管理計画」に基づき、公共施設や道路、下水道等のインフラ施設の総合的かつ計画的な管理に関する基本的

な方針を定めており、各施設の状態を定期的に把握し、令和6年度当初予算案に、公共施設総合点検業務として予算計上している。

Q 民間住宅の外壁塗装に対して助成金の導入の考えは。

A 個人財産における維持管理の範疇であり、現時点では考えていない。

5歳児健診の導入は

畑中保健
センター所長

検討・調整していく

Q 近隣自治体での「5歳児健診」の実施内容は。

A 現時点では、府内の市町村において、国の示す「5歳児健診」の同内容の健診は実施されていない。

す「5歳児健診」は医師の内科的健診も含めた総合的な健診であり、実施マニュアルが发出後、検討・調整を進めていく。

Q 国が定める助成金額は。

A 幼児1人当たり3千円を補助対象とし、その2分の1を助成している。

Q 5歳児健診の導入の考えは。

A 国の示



子ども達にも定期的な健診を



脇本 尚憲 議員

減災対策に向けた新たな取組は

西島町長
柳原建設課長
脇本総務課長

「安心・安全推進課」を
設置する

Q 新たに取り組む防災・減災対策は。

A 「安心・安全推進課」の設置、小学校体育館への空調設備設置や同報系防災行政無線、木造住宅耐震改修費補助金、防災広場整備、ハザードマップの更新等、さらなる防災・減災対策をめざし、積極的に取り組む。

Q 耐震診断・耐震改修の対象となる木造住宅の戸数は。

A 昭和56年以前に建てられた住宅は、1580棟。

Q 耐震診断・耐震改修・簡易改修・耐震シエルトの申請状況と補助件数は。

A 耐震診断が72件、耐震改修が22件、簡易耐震改修が5件、耐震シエルトが0件。

Q 耐震診断を推進すれば、減災対策や避難所計画を作成するための資料になると思うが本町の考えは。

A 倒壊する可能性が高いエリアを把握でき



自宅の耐震レベルを知ること大切

ることから、避難経路などの避難計画を検討するうえで有効なものであると考えている。

避難所生活を想定した防災訓練の実施は

脇本総務課長

先進事例を参考に
実施に向けて検討していく

Q 自主防災組織との避難所における連携状況は。

A 自主防災組織と消防団が危険と思われる

区域の方々に対して、避難するよう手分けして各戸を回り、避難者の把握等、重要な役割を果たしていただいている。

Q 女性や妊産婦、乳幼児、高齢者、障がい者、ペットへの対応は。

A 女性専用の物干し場、更衣室、授乳室の設置や下着の配布など女性や子育て家庭のニーズに配慮した運営に努める。高齢者や障がいのある方には、必要に応じて別室にて待機等していただく。ペットは、別スペースにて同伴避難していただく。

Q 防災訓練の一つとして、避難所開設や避難所生活の体験などに取り組む考えは。

A 体験により、その状況を体感したり対処法を学習したりすることで、冷静に行動できることに繋がるので、実施に向けて検討していきたい。



災害時は避難所となる多賀小学校体育館



田中保美 議員

図書館移転後の貸出冊数の変化は

中坊社会教育課長

昨年度を上回っている

Q 図書館移転後の、住民1人当たりの貸出冊数は、旧図書館時の貸出冊数の変化は。

A 令和6年2月末現在、1人当たり約5.03点。令和5年3月末1人当たり約4.89点。現時点で昨年度を若干上回っている。

Q 新図書館運営事業の主な取組は。

A 新図書館では、参加型の紙芝居や手遊び歌など、従来できなかった様々な読み聞かせ「ワクワクドキドキお話の時間」や、絵本の楽しみ方、読み方を学ぶ動画の視聴など、保護者が読書活動に興味を持ち、子どもとの読書時間が豊かになるよう働きかけている。

おもちゃ図書館の実施に併せて、子育て世代向け出張貸出事業を

はじめ、夏の水害展・平和展、秋の読書週間

などを通して、利用の拡大を図っている。



新図書館のキッズスペース

脳ドック助成制度導入の考えは

畑中保健センター所長 中谷保健医療課長

国民健康保険では
慎重に検討

Q 住民の健康づくりのため、どのような健診を実施しているのか。

A 後3〜5か月児の「乳児健康診査」、「1歳6か月児健康診査」、「2歳6か月児歯科健康診査」、「3歳児健康診査」、「20歳から39歳までの「二十歳からの健

Q 人間ドック受診費用助成の直近での実績は。

A 国民健康保険では、令和3年度が54人、4年度が52人、5年度49人、後期高齢者医療では、令和3年度が20人、4年度が23人、



各種健診情報のお知らせ

Q 「脳ドック」に対する助成制度導入の考えは。

A 今後の国保会計の、歳入歳出の動向を見極めて慎重に検討したい。後期高齢者医療では、現時点では導入を考慮していない。

5年度が29人。



木村 健太 議員

「IDECA」の今後の運用は

坂井高齢福祉課長

運行体制の充実を図る

専用車両1台を増設して2台体制とし、引き続き、社会福祉協議会の車両も併用して運行を行うと聞いている。に専従する職員の配置と運転員1名を増員する等、運営体制の充実を図ると聞いている。

Q 運行日や車両以外に、令和6年度より新たに改善される点はあるのか。

A 実証運行の際、配車が集中した場合は、社会福祉協議会の職員が急きょ車両を運転する等の応援体制により対応されている。

今後増加が見込まれる運行予約の対応や、

予約状況に応じた安定的かつ円滑な運行ができるよう、予約・配車

Q 試験運行期間中は、週3日の運行となつて

いるが、山城多賀駅前

商業施設開業後は、運

行日の追加や車両を増

台する予定はあるのか。

A 「IDECA」の実

施主体である町社会福

曜日に水曜日を加えた週4日とする。車両は、

の火曜日、木曜日、金曜日に水曜日を加えた週4日とする。車両は、



新しく追加された新車両

IDECA いてか

井手町内限定「送迎サービス」
試験運行実施、令和5年4月～令和6年3月

対象者 65歳以上で登録した方

運行範囲 井手町内全域 *町外へは市の交通機関へお乗り換えください

運行時間 9時～16時

運行日 火・木・金曜日(要予約) *休日・年末年始除く

利用料 片道1回100円/人 *4.5歳以上は片道200円

登録料 100円 利用メンバー登録受付中

社会福祉法人
井手町社会福祉協議会
TEL 0774-82-3901

詳細はこちらの番号にお電話を

産業厚生常任委員会報告

「井手町下水道事業の設置等に関する条例制定の件」

委員長 奥田 俊夫

3月11日に全委員5名と委員外議員3名の出席のもと、西島町長並びに島田副町長、説明員として仁木上下水道課長、板谷上下水道課係長の出席を求め、開催しました。

出席議員からは、設置に至った経緯は何か、料金の値上げや職員数を減らすこと、サービース低下にはならないのか等、様々な質問があり、活発な委員会となりました。



活発な委員会となりました

行政報告会

災害に強いまちを目指して

脇本 尚憲

2月5日に全議員出席のもと、井手分署長と担当者を招いて、令和6年能登半島地震の援助等の活動報告をお聞きました。

被災地での後方支援活動の様子を、写真とともに説明され、ライフラインの復旧だけではなく支援を受入れる側の体制づくり、重機オペレーターの確保、被災者のメンタル面のフォローなど、多くの課題解決に向けた取組が必要との説明がありました。

また本町で同規模の地震が発生した場合に、木津川に架かる橋の被災状況によっては、病院への搬送や支援物資の搬入が、西側や南側から行えない可能性があるなどの説明を受け、ドクターヘリなどの空路での支援確保も必要だと感じました。



被災地の支援について多く質問が出ました

行政報告会

「IDECA」の実証運行の状況

脇本 尚憲

社会福祉協議会で、令和5年4月から一年間実証運行が実施されている、井手町内限定送迎サービス「IDECA」の活動状況について、高齢福祉課の担当課長より、行政報告がありました。

利用者数や主な利用先など分析された内容の説明があり、事前登録はしているが、送迎サービスを利用していない人への電話での聞き取り調査など、きめ細かい対応を行っているとの説明がありました。

参加議員からは、高齢者の貴重な移動手段として今後も必要。山城多賀駅前商業施設の開業に伴い、送迎サービスを希望する方の利用増加も見込まれる等、事業の拡充を求める声がありました。



拡充を求める声が多くありました

加速する「あたたかい京都づくり」

議長 奥田 俊夫

令和6年2月13日に開催され、本町から谷田利一 副議長と出席してきました。

第一部では西脇隆俊京都府知事より、講演がありました。

冒頭、令和6年能登半島地震に係る対応等の説明があり、続いて新型コロナウイルス感染症等の感染状況、原油・物価高騰等への対応についての説明、その後、『未来への施策展開』あたたかい京都づくり』についての詳しい説明を聞くことができました。大変有意義な研修会でした。

第二部の意見交換会では、府議会や他市町村の正副議長と色々な話をする機会があり、とても勉強になったと共に、大変いい経験をさせていただきました。それらを今後の議員活動に活かせるように頑張っていきたいと思えます。



西脇府知事による講演の様子

研修報告

多角的に考えることの大切さを理解

谷田 健治

1月22日～23日に、全国市町村国際文化研修所で開催された、市町村議会議員特別セミナーに参加しました。

一日目に、講師の方の体験を通した「ジェンダー論」の講義。もう一つは、「共生社会実現」について住民同士の支えあいの重要性を説く内容でした。

二日目も二つの講義を受けました。一つ目は日本の財政課題について資料を基に解説されました。もう一つは、若者の未婚から少子化をどう見るかというテーマの講義でした。

また、講義だけでなく、他府県から参加されている議員の方との交流もできました。北陸地方から参加されていた議員の方からは、能登半島地震の状況なども聞くことができました。

今回の研修で、「福祉」というテーマのもと、各分野でご活躍の先生方からの講義を受け、今後の本町の未来と私たち地方議員に求められている役割について、多角的に考えることが大切だと思えました。



「福祉」をテーマに講義を受けました

資源化率向上への取組の大切さを学ぶ

廃棄物処理常任委員会委員長 奥田 俊夫

1月15日～16日の2日間、木村武壽議員と共に出席してきました。

初日は東京都小金井市を訪れ、ごみの減量・資源化推進への取組について担当者より説明を受けました。ごみの減量に向けてまず有料化にされ、それに伴い戸別収集に変更するようにされました。そのためには、幾度となく住民説明会を開催し、住民への理解を得られるように努力されたとのことでした。

2日目は東京都日野市にある、クリーンセンターを訪れ、持続可能な社会への構築に向けた取組について説明を受けました。

「分ければ資源」を合言葉に、資源化率向上への住民の理解と協力を呼びかけておられました。私たちも今後、何かできることから、少しでも一歩前進していけるように、日々努力をしなければいけないと、改めて感じました。



クリーンセンターの視察の様子

いでたんが聞く



ニック先生
ニューヨーク出身

新米記者いでたんが町に出かけて、
まちのこいろいろ聞いてみます。

今回は本町の小・中学校の
英語教育向上のために尽力されている
ALTのニック先生とハジス先生に取材を行いました。



いでたん



ハジス先生
ギリシャ生まれ
ボストン育ち

ALTの活動とは具体的にどのような活動ですか

ALTとは 「Assistant Language Teacher」の略で、英語の授業で先生や生徒をサポートすること。授業計画の作成補助から、授業中や授業後の児童生徒一人ひとりの英語指導の補助まで様々です。生徒たちに英語圏の日々の文化を紹介し、習慣や音楽、芸術、食べ物などについて話します。

(ニック)

井手町は美しい町です。好きなところのひとつは夜空です。特に冬は、星がはっきり見えるのがいいです。

井手町に対する印象は

(ハジス)

小さくて素敵な町だと思います。とても静かで、リラックスできます。

(ニック)

スピーキング、リスニング、リーディングの3本柱を均等に鍛えることが大切です。そして、何よりも大切なのは、間違いを気にしないことです。間違いは避けられない。また、そうやって学んでいくものなのです。

英語の教育の中で特に大切にしていることは

(ハジス)

忍耐と生徒への思いやりが大切です。第二言語や外国語を学ぶのは難しいことです。教師は生徒たちに忍耐の美德を教えながら、自分自身も忍耐強くなる必要があるのです。

(ニック)

料理、特にお菓子作りが好きです。アメリカではケーキ作りの仕事をしていて、結婚式や誕生日などにケーキを作っていました。特技は、絵を描くことです。イギリスのロンドンの演劇学校で勉強したこともあります。

趣味特技はなんですか

(ハジス)

料理がすごく得意です。また弓道も毎週末練習しています。

(ニック)

“It’s never too late.”
“遅すぎるということはない” 人生には計画通りにいかないこともあるが、後に成功しないとも限らない。人生でまだやりたいことができるということを思い出させてくれる。

ポジティブになれる言葉は

(ハジス)

“Good luck, you can do it, and everything will be fine.”
“頑張れ、君ならできる。全てうまくいく。”



ニック先生、ハジス先生ご協力ありがとうございました！！